

レ会年30万tの生産体制構築へ Fクト 3社連携で固化材製造

廃石膏ボードリサイクルの業界団体「Fクト」(西川宝三会長、事務局・チヨウウテ)は5月29日、第3回会合を開いた。チヨウウテ(三重県、平田晴久社長)の平田寛太郎環境事業本部長が講演の中で、廃石膏など

00年には石膏材対策協議会(以下、協議会)に加入。県の環境部門の職員、土木関係の発注部局の職員、パージン材の供給業者の団体とともに、再生砕石の生産と安定供給などに関する対策について協議した。

また設立時に組合員

石を一括売買

又定図る山形方式

に対して許可・磁選機・ふるい機など品質を担保する条件を付与し、

で取り組みが周知されてきており、処理業者とTポイントの組み合わせが大きな関心を呼んでいる。

同社が持つ強みは、事業のPRに努める他、コンプライアンスの順守に力を入れ

所すつプラントを整備し、最終的に全国10カ所、年間30万tの固化材生産体制を目指す。

平田本部長が「石膏ボードにおけるビジネスモデルについて」の講演で話した。3社共同出資で廃石膏粉などを利用したセメント系

ている点だ。同社は、建設残土リサイクルプラントや木くず、がれきの破碎設備、安定型の最終処分場などを運営。収集車

灰などの調達、品質管理を担う。チヨウウテはプラントエンジニアリング、不溶化剤の安定供給、石膏粉の取扱いなどを担当。会員である現地の産廃処理業者は許認可取得、廃棄物の収集などを受け持つ。

「東日本大震災の復旧と今後の復興について」をテーマに登壇し、造粒固化による放射性廃棄物の資材化などについて説明。富山高専授が「DCPDに関する基礎研究の現状」リソ酸カルシウムの複合化と反応性向上」について講演した。

和興業の笹川恵一社長

に携わった。同社の元廣雅樹専務は、「違法な不用品回収業者や悪質な解体業者との違いを伝え、理解してもらうためにできる限り行動していく」と話した。

現在木質バイオマス発電所の設置が相次いでおり、特に、電力の買い取り価格が高い間伐材などを中心とした未利用材の需要が高まっていることが予想される。

北進重機 急峻な山岳地帯にも対応 ドラムチッパー販売強化

重機販売と木くずリサイクル事業を進める北進重機(群馬県渋川市、杉村輝夫社長)は、0279・25・0815)は、バイオマス発電所の設置などに伴い木くずの需要が増加

利用材の搬出などについて難点が指摘されている。同製品は、高馬力についてキャタピラによる走行能力や高いチップ化機能により山岳地帯での現地チップ化などに有効で、高まる未利用材の利用に

ブルーシートヨーロッパNo.1 破砕機!

漁網根株 etc.

破砕機 サナース

株式会社 サナース

検索

http://www.sun-earth.jp TEL.050-2018-0582



ドラムチッパーは

有効に活用する技術」で
社会に貢献。

フジRPFステーション
小型RPF製造ユニット

FITにフィット
バイオガス・ジェネ

バイオガス・ジェネレーターは、下水処理場ガスや、生ごみ・家畜糞尿等のメタン発酵を燃料として発電を行うもので、発電電